

令和4年度 金光藤蔭高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

<p>建学精神 : 我々が天地の大徳によって生かされ、家族をはじめ多くの人々の祈りによって育てられていることの自覚と感謝の念から発して、その自分を大切に、将来世のお役に立つ人間となって、世界真の平和達成と文化の発展のために貢献し、そこに生甲斐と喜びを見出す人でありたいという念願に立って、教育の徹底を期する。</p> <p>教育理念 : 「人間平等」・「個性尊重」・「心を育む」を柱に、情操教育（4つの力を育てる）を推進する （4つの力）道徳的価値を養う教育／命の尊さを学ぶ宗教的教育／美的センスを育てる教育／自ら考える力を養う教育</p> <p>教育目標 : ①基本的生活習慣の確立 ②高い規範意識と社会に通ずる礼節を身につけさせる ③個を伸ばす指導</p>
--

2 中期的目標

<p>1 法人理念の徹底と教育理念の浸透</p> <p>(1) 法人理念の徹底</p> <p>(2) 教育理念の浸透</p> <p>2 新型コロナ対応の取り組み（継続）</p> <p>(1) 新しい学校生活の実践</p> <p>(2) 緊急事態宣言／まん延防止等重点措置における取り組み</p> <p>(3) 罹患者／濃厚接触者等の対応</p> <p>3 教育内容の充実改善</p> <p>(1) コース内容の充実・検証</p> <p>(2) 基礎学力の定着</p>	<p>(3) 生徒指導の充実</p> <p>(4) 進路指導の充実</p> <p>4 学校組織活動の充実発展</p> <p>(1) 学校組織の活性化</p> <p>(2) 組織と業務を通じた人材育成</p> <p>5 広報募集活動の充実強化</p> <p>(1) 広報募集の強化</p> <p>6 創立100周年に向けて</p> <p>(1) 問題解決型・未来志向型の学校風土の醸成</p>
---	---

【自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

<p>自己評価アンケートの結果と分析</p> <p>【アンケート】</p> <p>○生徒・保護者<令和5年2・3月実施>授業内容を中心に学校生活全般について調査した。(保護者15項目、生徒16項目)</p> <p>○教職員 <令和5年4月実施>授業評価・生活指導・その他教育活動やコロナ禍での取り組み、学校改革の成果について検証した。(14項目)</p> <p>【分析】</p> <p>○生徒・保護者アンケートではほとんどの項目で約80%以上の生徒が肯定的な反応を示している。</p> <p>○教職員による自己評価では、「6コースのそれぞれが特色を生かした学習活動を実践した」と94%の教職員が実感している。また「課題を抱える生徒について担任・学年・教育支援・生徒部・スクールカウンセラーが連携し組織的に丁寧に取り組んでいる」の項目でも約100%の教職員が共感し実践している。コロナ関連による感染予防や拡大防止に向けての取り組みに対して、94%の教職員が十分に組み合わせたと認識している。</p> <p>今後も一人一人の生徒に寄り添った、丁寧な教科指導、生活指導を継続していきたい。</p>	
<p>学校評価委員会からの意見</p> <p>学校評価委員 ①学識経験者：比嘉 悟氏（近畿医療専門学校 副校長 前桃山学院教育大学 副学長） ②本校 PTA 会長：田中 健太氏</p>	
<p>1 法人の理念と教育目標の浸透</p> <p>(1) 法人の理念の徹底 (ア) 建学精神の徹底については、「生徒、保護者の81%が心の教育を実感 (イ) 本部参拝・感謝際も「93%が学校行事として認識している」事から教育目標は達成されていると思う。</p> <p>2 新型コロナの取り組み</p> <p>(1) 新しい学校生活 (2) 非常時の取り組み (3) 罹患者・濃厚接触者等の対応</p> <p>(1) について、登校経路分散による登下校指導や分散集会放送及び学年別始業式・終業式の実施。食堂内・各教室での昼食時の黙食の徹底等で感染を防ぐ対策を実施している。(2) 大阪府の感知情報の推移を分析、分散当校・短縮授業を実施。94%の教員が対策に取り組んでいると認識できている。(3) 罹患者濃厚接触者等の把握と学校対応については、「ウェブでお知らせ」を利用して教職員の情報共有と、生徒・保護者の状況・方針を開示できたことが良かった。</p> <p>3 教育内容の充実と改善</p> <p>(1) コース内容の充実・検証：各コースは目標に沿って成果を上げている。アの特別進学コースは多くの生徒が希望する大学に進学することができた。ウのエンカレッジコースは「学びなおし」を募集のコンセプトに入れることで入学者の安定に繋がっている。カのトップアスリートコースは各クラブの成績が向上した。また令和5年度入学生が93名3クラスとなり昨年度に比較し大幅に増員した。キの課題を抱える生徒の対応もアンケート調査で先生と生徒との関わり方も高い数値を示している。以上、コースの充実が検証されている。</p>	<p>(2) 基礎学力の定着と向上の取り組みは、エの生徒によるアンケート調査では、「授業は分かりやすく工夫されているか」について89%の生徒が満足していると回答。同じく保護者も87%という高い数字を示している。教員の授業の取り組み方は評価される。(3) 生徒指導の充実については退学者が前年より増加していることや、イの生徒指導案件も増加していることが気掛りである。ウの人権侵害がゼロは誇れる事である。</p> <p>(4) 進路の充実：大学進学率が大幅に増加したのは評価される。</p> <p>4 学校組織活動の充実発展</p> <p>(1) 組織と業務を通じた人材育成：ベテラン・若手が協力して課題解決と新しい取り組みにチャレンジしている項目に教員76%が認識している。また、進路部（研究研修）が様々な校内・郊外研修を提示し、若手教員も積極的に参加しているのは学校活性化に繋がる。</p> <p>5 広報活動の充実強化</p> <p>(1) 広報募集の強化：アオープンキャンパスは昨年度より99名増の367名は評価できるが、ウ新入生が291名で目標を達成できなかったことから、今後の広報活動の工夫が必要である。</p> <p>6 100周年に向けて</p> <p>(1) 未来型思考型の学校風土の醸成：一人一人の生徒に誠実に真摯に向き合い、保護者との連携をさらに深め、教職員が魅力ある学校づくりのために日々研鑽しチャレンジすることに務める。全員がこの目標に一丸となり取り組んで達成して下さい。期待をしています。</p> <p>最後に、教職員が生徒ひとり一人を大切に、ひとりも置いていかない教育をしていると感じる。今後もその姿勢を貫いてほしいと思います。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

目 標 中 期 的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
法人理念の徹底と教育理念の浸透	<p>(1) 法人理念の徹底 ア 建学精神の徹底</p> <p>イ 本部参拝・感謝祭</p> <p>(2) 教育理念の浸透 ア 情操教育の実践</p>	<p>(1) 法人理念の徹底 ア 建学精神を全ての教育活動の基本として、教職員・生徒・保護者への啓発に努める。</p> <p>イ 新型コロナの状況に応じて、宗務課と調整のうえ、実施を検討する。</p> <p>(2) 教育理念の浸透 ア 道徳的価値を養う、命の尊さを学ぶ、美的センスを養う、自ら考える力を養う教育を学校生活全般を通して意識し実践する。</p>	<p>ア 式典・行事をはじめ、学年・学級での指導を通じて、建学精神を理解させる。</p> <p>イ 天地・人・物への感謝と、社会のお役に立つという「心の教育」を本部参拝・感謝祭を通じて体现する。</p> <p>ア HR・授業・課外活動や修学旅行・校外学習・コース別行事等を通じて、情操教育の実践を心がける。</p>	<p>ア 生徒・保護者の約81%が心の教育を実感していると認識している。式や行事の他、学年集会や日々のホームルームでの指導が生徒に浸透しているようである。</p> <p>また昼休みや放課後、神徳堂（お広前）を訪れる生徒も多く、宗務課教員との対話を通して心の癒しを得ている生徒も多い。</p> <p>イ 93%の生徒が学校行事として認識している。コロナ禍の影響で本部参拝に代わり玉水教会参拝を実施することとなった。感謝祭・宗教の授業の中で「日々生かされている」「世のお役に立つ人間になる」ことへの意識喚起を促すことができた。感謝祭では参列した3年生全員が、感謝の気持ちをもって日々の学校生活を過ごす決意を新たにしました。</p> <p>ア 94%の教員が諸活動を通して、情操教育の実践に取り組んでいると認識している。</p>
	新型コロナ対応の取り組み（継続）	<p>(1) 新しい学校生活 ア 感染予防の徹底</p> <p>イ 教科活動・クラブ活動・学校行事</p> <p>(2) 非常時の取り組み ア 教育活動について</p> <p>(3) 罹患者・濃厚接触者等の対応</p>	<p>(1) 新しい学校生活の実践 ア マスクの着用・手洗い・換気の徹底 ア 食事時の自席・黙食の徹底</p> <p>イ 芸術（音・美・書）、体育、家庭科（調理）等における感染予防対策の徹底 イ クラブ活動の活動自粛・時間短縮・分散 イ 感染対策に留意した学校行事の遂行</p> <p>(2) 緊急事態宣言／まん延防止等重点措置における教育活動実践 ア 基本的には、大阪府教育庁の方針に沿って行う。 ア 本校の立地条件、施設面を照らし合わせ、分散登校・短縮授業等を計画・実施する。</p> <p>(3) 罹患者・濃厚接触者の対応について ア 本人・家庭・医療機関・保健機関・学校医と連携し、速やかに情報収集・対応する。 ア クラスター防止、感染拡大防止を最優先課題とし、学級閉鎖・コース閉鎖・学年閉鎖・全校休校等、段階的措置を講じる。</p>	<p>ア 校内での生活様式の徹底は基より、全ての場面での感染予防意識を浸透させる。</p> <p>イ 学年・クラス・教科・クラブにおいて、各担当者が感染予防に十分に留意し、計画・実施すること。</p> <p>ア 状況に応じて、臨時休校・分散登校・短縮授業等の措置を行う。</p> <p>ア 罹患者・濃厚接触者の把握と、指示の徹底。 ア 教職員間の情報共有と、生徒・保護者へのWEB／HP等を利用した、状況と方針の開示。 ア 校内の消毒や学校再開への速やかな準備。</p>

教育内容の充実改善 「コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導」	(1) コース内容の 充実・検証	(1) コース内容の充実・検証		
	ア 特別進学	ア 特別進学については、少人数制の利点を生かして個々の学力向上に努める。各種講習や勉強合宿での内容の充実を図ると同時に、関西福祉大学をはじめ、大学見学や体験を通して進学意欲を持たせる。	ア 希望する四年制大学への全員合格を実現する。	ア 特別進学コースは入試対策・夏季・冬季講習に力を入れ、京都産業大学をはじめ多くの生徒が希望する大学に進学することができた。
	イ ライフクリエイティブ	イ ライフクリエイティブについては、キャリア科目の充実・改編を進める。	イ 生徒の関心を高め、進路選択へ繋げるキャリア科目の設定。	イ ライフクリエイティブコースは協力校である辻学園、日本理美容専門学校に多数進学した。今後もより強い連携を続けたい。
	ウ エンカレッジ	ウ エンカレッジについては、具申書・高校生活カードや入学前面談等を十分活用して、個別教育支援計画の作成等を丁寧に行う。生徒・保護者との連携を密にし、「学びなおし」と「体験型授業」を実施する。	ウ エンカレッジ生徒の出席状況の改善、満足度の向上を図る。	ウ エンカレッジコース開設6年目、「学びなおし」を募集のコンセプトに入れることで、入学者数の安定に繋がっている。入学前面談実施や個別教育支援計画の作成に力を入れ、担任・学年が中心となって粘り強い取り組みを実施し86%が進級することができた。3年生は54名中41名が進学した。
	エ ITライセンス	エ ITライセンスについては、専門学校との連携を密に、各種検定・資格取得の向上を目指す。また、動画分野やグラフィックデザイン、e-Sports 分野への拡大を検討。	エ ITライセンスは、ITパスポート（国家資格）をはじめ、各種検定試験の合格率向上を進路に反映させる。	エ ITライセンスコースは資格取得に向けて上級学年の多くの生徒が2級以上の上位級を取得できた。
	オ アートアニメーション	オ アートアニメーションについては、既存の商業美術的アニメ制作の域を超え、「デジタル制作の幅を広げる」ことを目的に展開していく。	オ 制作の喜びを味わうことのできる内容、総合的なプレゼンテーション能力の向上を図る。	オ アートアニメーションコースは目的意識をはっきり持った生徒の確保につながっている。3年生は美術系やイラスト・声優分野の大学、専門学校へ多く進学した。
カ トップアスリート	カ トップアスリートについては、6強化クラブの底上げ。次年度以降に向けて、追加種目(女子募集)の検討を行う。	カ 強化クラブの実績アップと生徒募集の成功。	カ トップアスリートコースは、柔道部の個人1名がインターハイ出場、団体(初)・個人1名が選手権大会出場、近畿大会(団体・個人)出場。女子ソフトボールはインターハイ出場はじめ全国選抜大会・近畿大会に出場。男子バスケットボール部はWINTER CUP 予選ベスト8。女子バスケットボール部は、WINTER CUP 予選ベスト8、昨年に続き近畿大会出場。令和5年度トップアスリート入学生は93名・3クラス編成となり昨年度に比べ大幅に増員した。	
キ 課題を抱える生徒への対応	キ 課題を抱える生徒への対応については、担任・学年を中心に、教務部(教育支援係)・生徒部・スクールカウンセラーが連携し、組織的に丁寧に取り組む。	キ 学校への登校、進級・卒業に向けた幅広い学校生活のサポートを丁寧に行う。	キ 担任・学年は生徒の登校状況を把握し、教育支援係等との連携で対応した。アンケートで「生徒の心身の悩みに先生が丁寧に対応しているか」には92%の生徒。「教員やスクールカウンセラーに気軽に相談できる」には83%の保護者が肯定している。今後も認定会議を通して、具体的な個別の支援策を迅速に打ち出せるよう連携を強めたい。	

	<p>(2)基礎学力の 定着と向上</p> <p>ア 全生徒への基礎基本の徹底</p> <p>イ 学習意欲のある生徒への特別対応</p> <p>ウ 研究授業の実施</p> <p>エ 生徒による授業評価</p>	<p>(2)基礎学力の定着と向上</p> <p>低学力の生徒が多い。在籍者全体の基礎的学力の定着と、進学希望生徒の学力アップ</p> <p>ア 基礎力指導(HR)や学習方法の充実・工夫に力を入れる。</p> <p>イ 英語検定等の対策講座や外部模擬試験の受験を積極的に展開する。</p> <p>ウ 授業改善や授業力向上に向けて研究授業等に取り組む。</p> <p>エ 生徒による授業評価を授業改善に活かす。</p>	<p>ア 校時に設定した「学びたいむ」・「聴く力・考える力」を養う授業。</p> <p>イ 教員による進学特別講習、藤蔭塾(放課後の自学自習サポート教室)を充実させる。</p> <p>ウ 教諭・常勤講師を対象として各教科で研究授業を実施する。 ウ 公開授業を年間2回の期間を設けて実施する。</p> <p>エ 教諭・常勤講師全員が生徒による授業評価を実施して分析する。</p>	<p>ア 「学びたいむ」では各学年・コースごとに「学びなおし」教材を工夫し実践した。 今後の課題として各クラス間でモチベーションの差異がないよう、生徒が達成感を感じるような教材の選定や授業作りを継続させたい。</p> <p>イ 放課後に実施した特別講習を受講した生徒の全員がその内容に満足している。 また自学自習サポート教室(藤蔭塾)も大学生のアシスタントによるきめ細かなサポートのおかげで、生徒たちの学習意欲を高めることができた。</p> <p>ウ 令和4年度においては、コロナ感染拡大防止のため、研究授業・公開授業を実施することができなかった。令和5年度は積極的に実施していきたい。</p> <p>エ アンケートでは「授業はわかりやすく、工夫がされているか」との質問に89%の生徒が満足を感じている。 同じく「本校では基礎学力向上に向けて丁寧でわかりやすい授業を行っている」との質問に87%の保護者が満足していると回答している。 しかし、科目別担当者によっては課題となる授業評価もみられたので、生徒による授業評価結果を教科内で共有し、振り返りシートを利用して教員一人一人の課題克服・授業改善につなげた。</p>
--	--	---	--	---

教育内容の充実改善「コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導」	(3)生徒指導の充実 ア 生活習慣・学習習慣の確立	(3)生徒指導の充実 生活背景や学習意識に課題を抱えて育ち、生活習慣未確立や学習習慣のない生徒が多い。生活習慣・学習習慣や自尊感情の醸成に力を入れて、出席状況や授業態度の改善に取り組む。 ア 転退学者数の改善を継続して行う。「3年間お預かりして育てる」「社会のよき構成員として世に送り出す」という使命感を大切にす。	ア 転退学者5パーセント以下を達成する。	ア 転退学者数 令和1年度→61名(7.43%) 転学34退学27 令和2年度→49名(5.56%) 転学35退学14 令和3年度→33名(3.53%) 転学20退学13 令和4年度→62名(6.61%) 転学29退学33 令和4年度の転退学率は昨年より増加し6%台となった。転退学者の約80%は「不登校」を含む「学校生活学業不適応」や「進路変更」が理由であった。 入学生の多くが小・中学時に家庭的、経済的、学習的に多くの課題を抱えている背景があることは否めない。 生活習慣未確立や学習習慣のない生徒の自尊感情の醸成にさらに力を入れ、出席状況や授業態度の改善に取り組みたい。
	イ 生徒間のトラブルや、SNS関連を含む生徒指導事案の防止 ウ 人権侵害事象の根絶 エ 挨拶・マナー等の徹底	イ 高校生らしい友達関係の構築が難しいケースがある。コミュニケーション能力を高め、望ましい対人関係を身に付けさせる。SNSの弊害や正しい使い方を教える。 ウ 道徳的価値観・命の尊さ・社会規範をしっかりと理解させ、生徒間の人権侵害事象は起こさない。 エ 学校内外のあらゆる場面におけるの礼節(挨拶・礼儀・節度ある行動)を習慣化するように指導を徹底する。	イ 指導事案の発生防止に繋がる日常の事前指導に重点を置く。 ウ 人権侵害事象はゼロを目指す。 エ 望ましい服装・身だしなみや、礼節を徹底させる。	イ 全体の生徒指導案件は昨年の16件から32件と大幅に増加した。そのうちSNSの不適切な使用による事案が年々増加傾向にあり、HRや学年集会で今後も注意をよびかけ、事案を未然に防ぐように継続して指導していきたい。 ウ 人権侵害事象はゼロであった。 エ 95%を超える生徒が「ルールを守り、挨拶もきちんと行っている」と答えている。いろいろな場面での挨拶指導が浸透してきている。
(4)進路指導の充実 ア 進学実績の向上 イ 望む職業への就労実現	(4)進路指導の充実 ア 大学・短大・専門系学校への進学実績を向上させる。 イ コロナ禍が続き、現役高校生には非常に厳しい情勢ではあるが、卒業段階での未進学者・未就労者の数をできる限り減らすことを目標とする。	ア 四年制大学をはじめ進学者を前年度よりアップさせる。 イ 未進学者・未就労者を前年度より減らす。	ア 全体の進学率は令和3年度の78.5%から76.9%とほぼ横ばいで、大学進学率は昨年度の29.1%から44.3%へと増加した。4年制大学の割合が過去3年間で最も多く、在籍の半数近くであった。 イ 進学希望者の中での未決定率は浪人希望を含め1.3%、就職希望者の中での未決定者は0.3%であった。進路未決定者ゼロを目指し、今後も粘り強い進路指導を継続していきたい。	

学校組織活動の充実発展	(1) 学校組織の活性化	(1) 学校組織の活性化 ア 組織的・機動的な学校体制の確立 教科指導やクラブ指導は専門性が必要、学年や分掌組織は組織力・機動力・実行力が必要である。それぞれが、連携を密に活発な業務活動を展開する。	ア 適性を配慮した人事配置を行う。 ア 将来を見据えた教員の採用を行う。	ア 準専任教員選考には9名の常勤講師が臨み、2名が任用となった。常勤講師は任期満了者に代わり、新規に9名を採用した。生徒の学習指導や教育活動に熱心に取り組む教員の採用に今後も全力を尽くす。
	(2) 組織と業務を通じた人材育成	(2) 組織と業務を通じた人材育成 ア 管理職や分掌組織の組織的業務を通して、5年後、10年後の担い手を育成する。 イ 課題抽出、発展的改編型の業務を展開し、ベテラン・若手が協力して課題解決と新しい取り組みにチャレンジする。	ア 管理職や校務運営委員会メンバーを中心に、重要な学校課題に向き合い業務を実践させる イ 教職員間のコミュニケーションとディスカッションを大切にする。	ア 新任の常勤講師を対象に研修を充実させ、学年部長や分掌長が中心となり学級経営、生活・学習、学校業務に関する細かい指導を行った。 イ ベテラン・若手が協力して課題解決と新しい取り組みにチャレンジしているかの項目に教員の76%がその取り組みを認識している。また進路部(研究研修)が様々な校内・校外研修を提示し、若手教員も積極的にそれに参加し、自己研鑽力を高めている。
広報募集活動の充実強化	(1) 広報募集の強化 ア 組織的な広報展開	(1) 広報募集の強化 ア 総務部(入試広報)の組織的な広報展開。渉外担当者4名、教員担当者2名、事務室担当者1名が中心となり、広報活動の運営に当たる。	ア オープンスクール・学校説明会・中学校対象説明会・塾長説明会・個別相談会・私学展等全般を通して、丁寧かつわかりやすい広報活動を行う。	ア 中学生・保護者対象のオープンスクールを3回、入試説明会を4回、塾長対象・中学校教員向けの説明会もそれぞれ実施した。またエンカレッジコース対象の個別相談会を実施した(相談実人数198人)。オープンスクール参加者は昨年度より99名増の367。入試説明会は昨年度より35名減の388名であった。
	イ 外部広報	イ 外部広報 学校案内・ポスター・冊子等を企画・作成する。ホームページについては、総務部がリアルタイムで情報を発信する。加えて、公式インスタグラムによる情報発信。	イ 中学生・保護者向けに、魅力ある媒体を提供する。	イ 学校案内冊子の発行を早め、中学校への速やかな広報活動を開始した。またホームページをはじめ公式インスタグラム・LINE・YouTube等を開設し、中学生や保護者によりわかりやすく親しみやすさをアピールし、学校行事等もタイムリーにアップするよう努めた。
	ウ 入学生徒の確保	ウ 入学生徒の確保 本校を対象とする生徒層を本校の「学校体制」と「教育内容」で丁寧に3年間育て上げるということで、生徒・保護者・中学・塾等の外部評価を得る。	ウ 令和5年度入試において、300名を超える入学者数を確保する。	ウ 新入生291名となり目標を達成することができなかった。令和5年度はコースの改編・充実を全面に中学校・塾にアピールし、広報活動の強化・充実を図りたい。
	エ 新しい校内食堂	エ 新しい食堂業者により、質の向上を図り、在校生の満足度、中学生向けに魅力ある食のPRを発信する。	エ オープンスクール等での食堂体験など企画し、中学生の関心度アップにつなげる。	エ 「校内食堂はメニューや価格をはじめ美味しさにも満足している」に94%の生徒が満足として回答している。オープンスクール等で多くの中学生・保護者に食堂を体験してもらい本校のアットホームな雰囲気を感じ取ってもらいたい。

<p>創立一〇〇周年に向けて</p>	<p>(1) 未来志向型の学校 風土の醸成</p>	<p>(1) 未来志向型の学校風土の醸成 令和8年(100周年)に向けて、教職員一人一人が将来の本校の姿を描きながら、日々の業務に向き合い、意識させるようにする。</p>	<p>様々な学校課題に連帯感を持って、前向きに取り組む、学校の一体感を醸成する。</p>	<p>一人一人の生徒に誠実に真摯に向き合い、保護者との連携をさらに深め、教職員が魅力ある学校づくりのために日々研鑽しチャレンジすることに努める。</p>
--------------------	-------------------------------	---	--	--